練習33　問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

子どもや若者は本来、素直に希望を語りやすいものです。それが大人になるにつれて、実現可能性についての情報を持つようになります。すると、「希望なんてどうせかなわない(注1)」というあきらめも生じやすくなります。また情報が少ない時代には持つことができた無邪気な希望も、高度情報化社会になると、そうもいきません。情報が多いと選択肢が増えて有利になる人もいます。しかし、自分に特別な才能がないと思う人には、希望なんてどうせかなわないと、思い知らされることのほうが、むしろ増えるのです。

情報化が進んだ社会の若者は、かつての若者以上に、希望の実現が困難であることを直観的に知っているように思います。その意味では、昔の子どもよりも、①今の子どものほうが、夢や希望を持ちにくくなっているといえるかもしれません。

（玄田有史『希望のつくり方』岩波書店）

（注1）かなう：実現する

問い ①今の子どものほうが、夢や希望を持ちにくくなっているといえるかもしれませんとあるが、なぜか。

1　高度情報化社会になり、昔と比べて情報が多いため

2　今の子どもは、素直に希望を語らないため

3　今は特別な才能を持つ子どもが減ったため

4　今はさまざまな選択の可能性が増えすぎたため

LIVEWORKSHEETS

練習34　問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

自分が転職に向いているかどうかをチェックする簡単な方法があります。それは、自分にとって[1]居心地の悪い、新しい空間に身を投じてみることです。

どんなことでもいいのです。たとえばスポーツジムに行ったり、興味のあった習い事を始めてみたり……。習い事など新しいことを始めるときは、誰でもゼロからのスタートになります。ですから、友達と一緒にではなく、自分一人で始めてみましょう。

一人でゼロから始めるとなると、いろいろな意味で居心地の悪い思いをするでしょう。まず、不明な点は誰かに聞かなければなりません。(中略) これをストレスに感じる人もいるはずです。

転職した場合も、一人で新しい環境に対応していかなければなりません。今までいた会社とは全く違う環境のもとで、たとえば「普段、ランチはどこに食べに行くんですか？」といった小さな日常的なことさえも、同僚とはいえよく知らない人に一つ一つ聞いていかなければなりません。事前に習い事などを一人で始めてみると、自分が新しい環境のもとでうまく対応できるかどうかがわかるのです。

(小島貴子『天職力と転職力』角川SSコミュニケーションズ)

問い 転職をする前に①居心地の悪い、新しい空間に身を投じてみるのがいいのはなぜか。

1　新しい職場でうまくやっていけるかどうか、わかるから。

2　新しい仕事の内容に向いているかどうか、わかるから。

3　今の仕事にストレスを感じているかどうか、わかるから。

4　今の職場が本当に居心地が悪いかどうか、わかるから。

LIVEWORKSHEETS

練習35　問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

私が子どもの頃、父に映画を見に連れていってもらったときのことです。見終わって父に「どうだった？」と聞かれたのですが、ことばが思い浮かびません。ためらった末、「べつに」と答え、父からひどく怒られました。

そのときは、「こんなことでなぜ？」と思ったのですが、せっかくの休日にわざわざ映画に連れて行って、子どもの喜んでいる声を聞きたかった父には、やるせなかったのでしょう。映画のよしあしよりも、発せられた問いに正面から向き合って答えなかった私の声にあらわれた態度に、許しがたいものを感じたのでしょう。私の声の出し方と、その声から伝わったものが、父を不快にさせたのです。

でも、もし怒られなかったら、私はそのことに気づかなかったでしょう。このとき、ほかの人なら、きっと何も言わずに、ごうまんで、ぶしつけで、無気力で、いいかげんな人間だと私を判断したかもしれません。そして、黙って遠ざかっていったでしょう。

（福島英『声のトレーニング』岩波書店）

問い 筆者が父に怒られたのはなぜか。

1　筆者が、映画の内容が良かったと言わなかったから。

2　筆者の声が小さくて、父にははっきり聞こえなかったから。

3　筆者がすぐに父の質問に答えなかったから。

4　筆者の声に、質問に答えようとする誠実さがなかったから。

LIVEWORKSHEETS

練習36　問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

どのような仕事でも働く時に共通するのは、相手（人、機械など）があり、仕事を進める手段に手順があり、途中でその働きを評価し、最後にその働きで報酬や感謝の言葉、態度を受け取るということだ。確かに仕事はさまざまだし、その働きも仕事によって違いがあるように思われるけれども、その基となることを探ってみると、共通していることが多い。

君たちの勉強にしても、ほとんど同じではないか。先生などの相手がいて勉強が始まり、勉強には手順があってうまくその手順を覚えて従うと効率のいい勉強ができる。勉強の途中で自分で、あるいは先生に、その途中経過をチェックしてもらう。すると、それからの勉強がうまくできていい成績がとれる。こう考えると、つまりは①学校で勉強していることが会社や社会で働くことを勉強していることになるのだと分かるだろう。（中略）会社で君たちが必要とする力は、どれだけものを知っているかだけでなく、どのようにして問題を発見し、その発見から得た課題をどう解きほぐす手段を持ち、努力を重ねて新しいものを作ったり、驚くような感動を与えたりできるかなのだ。

（森清『働くって何だ　30のアドバイス』岩波書店）

問い ①学校で勉強していることが会社や社会で働くことを勉強していることになるのはなぜか。

1　学校で勉強した知識が、社会人になった時に役に立つから。

2　学校で行う勉強の流れは、働く時のやりかたと共通するから。

3　学校の勉強でしてきた努力は、働く時にも必要であるから。

4　学校でとった成績が、就職をする時にチェックされるから。

LIVEWORKSHEETS

練習37　問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

非の打ちどころのない(注1)人間は、いません。誰でも、どこか欠けています。欠けているところだけみつめると、自分はダメ人間だと思えてきます。劣等感ともいいます。

劣等感を忘れるときがあります。それは強いものの仲間に入って、「劣った人間」をばかにするときです。ほんとうは強くないのに、生まれつき強いものの仲間であるような気になって、劣等感から解放されます。

差別されるものに、劣ったところがあるのでなく、差別するほうに、どこか劣ったところがあるのです。劣ったところを忘れるために、自分たちは強い仲間だという、つくり話をかんがえだします。自分たちは正常の人間だが、相手はきずものだときめつけることもあります。

（松田道雄『私は女性にしか期待しない』岩波書店）

(注1)非の打ちどころのない：全く欠点のない

問い 筆者は人が差別をするのはなぜだと考えているか。

1　相手がつくり話をして、自分たちの仲間が劣っているとばかにするから。

2　相手の劣ったところを見ることで、自分の劣ったところを忘れられるから。

3　差別される人たちは劣っていて、正常ではないとみんながかんがえているから。

4　強いものの仲間に入って差別をすると、自分の劣等感から解放されるから。

LIVEWORKSHEETS

練習38　問いに対する答えとして最もよいものを一つ選びなさい。

結婚は入れ歯(注1)と同じである、という話があります。これは歯科医の人に聞いた話ですけれど、世の中には「入れ歯が合う人」と「合わない人」がいる。合う人は作った入れ歯が一発で合う。合わない人はいくら作り直しても合わない。別に口蓋の形状に違いがあるからではないんです。マインドセットの問題なんです。

自分のもともとの歯があったときの感覚が「自然」で、それと違うのは全部「不自然」だから厭だと思っている人と、歯が抜けちゃった以上、歯があったときのことは忘れて、とりあえずご飯を食べられれば、多少の違和感は許容範囲内、という人の違いです。自分の口に合うように入れ歯を作り替えようとする人間はたぶん永遠に「ジャストフィット(注2)する入れ歯」に会うことができないで、歯科医を転々とする。それに対して、「与えられた入れ歯」をとりあえずの与件として受け容れ、与えられた条件のもとで最高のパフォーマンス(注3)を発揮するように自分の口腔中の筋肉や関節の使い方を工夫する人は、そこそこの入れ歯を入れてもらったら、「ああ、これでいいです。あとは自分でなんとかしますから」ということになる。そして、ほんとうにそれでなんとかなっちゃうんです。

このマインドセットは結婚でも、就職でも、どんな場合でも同じだと僕は思います。

（内田樹『街場のメディア論』光文社）

注1）入れ歯：抜けた歯の代わりに入れる人工の歯

注2）ジャストフィット：ぴったり合う

注3）パフォーマンス：性能

問い「入れ歯が合う人」は、なぜ一発で合うのか。

1　入れ歯が合う人の口の中の形が特別な形ではなかったから。

2　自分で工夫して、自分の口に合う形になるように入れ歯を直すから。

3　歯があったときの感覚は忘れ、その入れ歯で食べられるよう工夫するから。

4　自分にぴったり合う入れ歯を作れる歯科医に出会うことができたから。

LIVEWORKSHEETS